
ステキな恋の秘伝書

いちごみるく

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

ステキな恋の秘伝書

【Nコード】

N3080M

【作者名】

いちごみるく

【あらすじ】

ある中学校に通う女子生徒、白石鈴は普通の恋を夢見るすごく普通の学生。しかしある日図書室で見つけた謎の本を開いた途端ベツドの上に飛ばされて、しかもそこはイナズマイレブンの世界だった！！元の世界へ帰る条件は「イナズマイレブンのキャラの誰かと両思いになる」こと！！
引き抜きキャラ多数、しかも口調がほぼ想像。

第一話 謎の本はワープゾーン!? (前書き)

新連載第一話です！鈴の恋を応援してくださいね！

第一話 謎の本はワープゾーン!?

ここはとある中学校、その図書室。

女子生徒「鈴ー、何か面白い本あったー?」

鈴「ファンタジーだね? まだ見つからないな」

今女子生徒が話しかけた、桃色の髪的女子生徒が白石鈴。

彼女は気弱で運動もできないが、友達と一緒に読書することが好きだった。

鈴「面白そうな本ないかな・・・? あれ、見慣れない本だな・・・
・新しく入ったのかな?」

鈴は青い背表紙の本を取り出した。
表紙に大きくイナズマが描かれている。

女子生徒「? 鈴、その本何? 図書室でそんな派手な本珍しいし」

鈴「私も見たことない・・・きっと新刊なんだよ」

女子生徒「ふーん・・・それより!! こーゆー新しい本は結構面白かったりするんだよね! 鈴はやく開けてみてよ!」

鈴「うん、面白い本だといいね!」

鈴は本を開いた・・・。

女子生徒「あれ? 鈴どうしたの倒れちゃって? また寝不足? ねえ鈴起きて・・・鈴? 鈴!」

鈴は白くて何もない世界に来ていた。

鈴「・・・ここどこ? それにしーちゃんは?」

その時、声が聞こえてきた。

謎の声「ようこそ、イナズマイレブンの世界への入り口へ!」

鈴「イナズマイレブン……ってあのサッカーのゲーム？」

謎の声「そうです、白石鈴さんにはこれからその世界に行ってもらいます」

鈴「なんで私の名前を……それより帰れるの？」

謎の声 「はい帰れますとも！ただし条件があります」

鈴「条件？」

謎の声「これから出会うイナズマイレブンの男の子たちの誰かと両思いになれば帰れます！それでは頑張ってください！」

鈴 「ええええええええええええええええええ！？」

訳の分からないまま、鈴はイナズマイレブンの世界に飛ばされた。

枕元で目覚まし時計が鳴っている。

鈴「んゝゝゝゝゝゝ・・さっきのは夢？ しーちゃんと図書室行くな
んてリアルな夢だったなゝ・・。」

鈴はベッドから起きて、制服に着替えようとした。

しかし、鈴が通っている学校の制服ではなかった。

鈴「……!？」
何で!？
何でいつもの制服じゃないの!？」

よく見ると、窓の外の風景もいづれに違ふ。

鈴「・・・きつと・・・きつと寝不足で頭が・・・でもとりあえず外に出ようかな」

鈴は身支度を整えて、外に出た。

かけてあった制服を着て、一応学生カバン（中身入り）も持って行くことにした。

外に出ると、やたら元氣のいい茶髪にバンダナの男の子がかけよってきた。

「おはよう鈴！稲妻町には慣れたか？」

鈴「え……えつと……君は？」

円堂「あーごめんごめん！俺、円堂守！鈴は昨日転校してきたばかりだから、自己紹介とかしてなかったな！」

鈴（円堂くん・・・聞いたことある！確か雷門中の・・・イナズマイレブンのキャプテンでゴールキーパーなんだっけ・・・）

円堂「鈴？」

鈴「あ、えっと・・・よろしくね、円堂くん！あとできれば・・・雷門中まで一緒に行ってくれるかな？」

鈴は当然雷門中の場所なんて知っている訳なかった。

円堂「よーしわかった！じゃあどっちが雷門中に先に着くか競争だ！」

円堂は走り出した。

鈴「あ！待って、円堂くん！」

鈴も円堂を見失わないように走った。

何度か転んだが、その度円堂は鈴を心配してくれた。

そして雷門中に着いた。

第二話 クラスメイト達（前書き）

啓と信と弥谷出ます・・・が、口調が想像です。
クラスも勝手に決めました。

第二話 クラスメイト達

鈴は円堂を追いかけて、雷門中に着いた。

鈴「着いた・・・！雷門中！」

円堂「鈴、さっき転んだの大丈夫か？」

鈴「うん、大丈夫！それでも運動は得意なほうだから・・・」

円堂「そっか！じゃあ放課後サッカー部の練習を見に来ないか？」

鈴「雷門サッカー部の練習・・・見てみたい！」

円堂「よし！放課後グラウンドで待ってるからな！じゃあ教室へ行こう！」

鈴と円堂は校舎に入った。

（2－A教室）

円堂「おはよう！」

鈴「お、おはよ・・・皆・・・」

とても元気のいい円堂と、少し緊張ぎみの鈴。

そこへ青い瞳の男子生徒がやってきた。

？「キャプテンおはよう、隣は鈴だね？」

鈴「え？あ、はじめまして・・・」

何に使うのかよく分からないコードが頭にささっている（ように鈴は見えた）。

鈴（頭にさすなんて・・・これがイナズマイレブン・・・？）

啓「ボクは啓、よろしく」

鈴「あ・・・うん、よろしく」

啓「鈴はまだ学校のことあまり知らないだろうし、昼休みはいろいろ教えてあげる」

鈴「ありがとう・・・」

鈴はすごく緊張していた。

？「お前・・・肩に力入ってるぞ？」

鈴「え！！？あ・・・えと・・・ちよっと緊張してたから・・・」

円堂「そんなに緊張しなくてもいいぜ！」

啓「まだ慣れてないんだね・・・ところで信いつからいたの？」

信「さっき来た・・・キャプテン、教室の入り口で話さないでください」

円堂「あ、ごめんごめん！」

そんな感じで鈴は2人と知り合い、朝の学活まで楽しく話した。

そして昼休みになった。

鈴と啓は売店の前に来ていた。

啓「ここでは購買部がいろいろ売ってるんだ、弁当忘れた時とか便利だよ」

鈴「そうなんだ！じゃあ何か買っていこうかな・・・きゃ！！」
？「うわっ！！」

鈴が売店に入ろうとした時、誰かとぶつかってしまった。

？「・・・痛ってーなおい！！！」

鈴「ひっ！！ご・・・ごめんな・・・さい・・・うう・・・」

男子生徒が鈴を睨みつけると、鈴は泣き出してしまった。

？「げ！おい・・・泣くな！ごめんマジで！！泣くなよ！！な！？」

啓「ああ今日も・・・」

そこにはたくさんさんの野次馬が集まっていた。

女子生徒「あーあいつサッカー部の弥谷でしょ？今日も女の子泣かせちゃって」

女子生徒「あの子転校生の白石さんだ！転校早々泣かせるなんてマジ最悪だよねー！」

そんなの聞こえない弥谷は、鈴を泣き止ませるのに必死だった。

弥谷「困った・・・じゃとりあえず・・・クッキーフレーバー3本・・・いや5本！！やるから泣くな！！」

啓「5本！？何でそんなに買ったの！？いつも2本なのに！」

鈴「クッキー？」

弥谷「ほら・・・やる！だから泣くな！」

とりあえず1本受け取り、食べてみた。

鈴「あ・・・おいしい」

弥谷「だろ？残りの4本もやる！これで許してくれ！」

そう言って弥谷は逃げていった。

啓「あいつ女の子泣かせるといつもクッキーフレーバーで解決しようとするんだ」

鈴「そうなんだ・・・」

啓「月のお小遣いは全てフレーバーに消えるらしいよ」

鈴「なんでそんなこと知ってるの？」

その後もいろいろ話したりしてあちこち回った。

放課後、鈴がグラウンドへ行くと円堂たちはもう来ていた。

鈴「ごめんね円堂くん、遅くなっちゃって・・・」

円堂「いいって！んじゃメンバーを紹介するな！」

円堂の後ろにはたくさんの部員が並んでいた。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3080m/>

ステキな恋の秘伝書

2010年10月13日16時18分発行